

国立研究開発法人国立環境研究所
契約監視委員会（第20回）議事概要

1. 日時

令和2年12月14日（月）10:00～12:00

2. 場所

ウェブ会議にて実施

3. 出席者（委員（敬称略、五十音順））

天野 玲子（国立研究開発法人国立環境研究所 監事）
加藤 暢一（国立研究開発法人国立環境研究所 監事）
西山 温（古賀総合法律事務所 弁護士）
野村 豊弘（日本エネルギー法研究所 理事長）
古米 弘明（東京大学大学院工学系研究科 教授）

4. 開会

議事に先立ち、是澤理事から開会挨拶を行った。

5. 議題

- (1) 前回議事概要の確認について
- (2) 令和2年度上半期の随意契約の状況について（抽出審査2件）
- (3) 令和2年度上半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて（抽出審査2件）
- (4) その他

6. 議事

(1) 前回議事概要の確認について

事務局より資料に基づき説明が行われた。

(2) 令和2年度上半期の随意契約の状況について

令和2年4月1日から同年9月30日までに契約締結した案件のうち、随意契約案件（79件）について審議が行われた。なお、事前に抽出された2件については担当者へのヒアリングが行われた。

委員からの主な意見は特になし。

○抽出審査1（伝導磁石核磁気共鳴装置（日本電子(株)製JNM-ECA500）及び周辺機器保守業務）

○抽出審査2（令和2年度低炭素化社会及び復興コミュニティの形成支援研究に関するくらしアシストシステム運用等業務）

(3) 令和2年度上半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて

令和2年4月1日から同年9月30日までに契約締結した案件のうち、前年度（複数年契約を行っている案件については前回契約）に引き続き一者応札・応募となった案件（56件）について審議が行われた。なお、事前に抽出された2件については担当者へのヒアリングが行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

○抽出審査3（令和2年度化学物質環境リスク初期評価補助業務）

- ▶ 補助業務として発注しているが、一般に補助という概念が抽象的である上、その一つの業務の中でいくつかの補助業務が抱き合わせになっている。成果物としての報告書の作成も個別ではなく一体化しており、その成果物に対して何を請け負うのかというところが分かりにくい。総じて、他者が参入しにくい構造になっている。

（→業務切り分けや仕様の明確化等の見直しを図る。今後、他の案件についても一者応札にならないよう、更なる仕様書等の記載の工夫（限定的にしない、要件緩和する等）をするとともに、過年度の業務に関する報告書や成果物等の積極的な閲覧の提供について検討する。）

○抽出審査4（令和2年度野生動物試料の凍結保存作業及び検疫作業に関連する派遣業務）

（4）その他

- ・一者応札・応募等事案フォローアップ票の「講ずる措置」欄において、案件ごとに仕様書の記載を工夫する等の案があれば、それを追記すること。
- ・例年の同期の契約件数に比べ、今期は随分多くなっている。研究計画上やむを得ない部分もあるかもしれないが、場合によっては予算消化と見られかねないため、次期中長期計画では最終年度に集中しないよう、計画的な予算執行を心がけること。
- ・次回の委員会は半年後開催予定。その際の抽出審査案件については、古米委員に案件を抽出いただくことに決定した。

・最後に、事務局より、本委員会資料（一部）及び議事概要について、委員の確認及び承認後に国立環境研究所ホームページに公表することを報告した。

以上